基礎看護学

【基礎看護学の考え方】

基礎看護学では看護の基盤である「人間」「健康」「環境」「看護」を主軸とした専門的な基礎を学ぶ。また基礎看護学を礎にして領域別看護の学習を進めるうえで重要な位置づけとなる。

少子高齢、疾病の多様化、医療の発達など社会の変遷の中、様々な生活様式の中で健康な人、不健康な人、胎児が人として生を育み、成長し、歳を経た人の死が存在している。様々なライフサイクル全般において全ての人が看護の対象であり、基礎看護学では地域で暮らす生活者を看護・医療・福祉で支えることを学ぶ。そして学生自らも地域に暮らす生活者であることを意識し、根拠を理解しながら看護者としての学習を深めていく。

【看護学概論】では看護学の本質を理解すると同時に、看護学の豊かさや奥深さをイメージし、各領域の看護学への学習意欲と関心を高める。【看護倫理】では看護専門職者としての倫理観を育成する。【看護技術】では基本となる看護技術を、正しい知識と科学的根拠と看護師として適切な態度を学び、提供できるような基礎看護技術を学ぶ。【看護過程】では個人を理解し、尊重したケアを組み立て、実践まで行い記録、評価する。【臨床看護総論】看護の基本として多様な健康上のニーズを持つあらゆる発達段階の人々に基本的な看護学の知識や技術を統合し、応用するプロセスを学ぶ。

これらを学ぶことから将来の看護師像を考える原点とする。

〔 目的 〕

看護の役割を知り、看護の実践力となる基礎知識・基礎看護技術および看護者としての誠実な態度を習得する。

〔 目標 〕

1. 看護の主要概念を理解し、保健・医療・福祉における看護の役割を理解する。
2. 看護実践全般に関わる基本的知識と基礎看護技術を根拠を持って習得する。
3. 看護実践を科学的かつ理論的に展開するための能力を身につける。
4. 看護の対象や健康を日常を踏まえた多様的な視点で考察する。
5. 安全・安楽な看護を提供するために対象者との関係づくりの基礎を身につける。

【構成および計画】

授業科目	単位数	時間数	学年別計画時間			
			1 年	2 年	3 年	
看護学概論	1	30	前期			
看護理論	1	15			前期	
コミュニケーション技術	1	15	前期			
フィジカルアセスメント	1	30	前期			
看護記録と看護過程	2	45	後期			
環境整備と移動の技術	1	30	前期			
清潔援助と寝衣交換の技術	1	30	前期			
食事と排泄援助の技術	1	30	後期			
与薬と注射の技術	1	30	後期			
臨床看護の実践	1	15	後期			
臨床看護の演習	1	15		前期		

科目名	講　師	小森 うめの	単位数	1
看護学概論			時間数	30

科目目的: 看護の基本的概念を理解し、保健・医療・福祉において看護の果す役割を認識するとともに看護倫理を学ぶ。

科目目標:1. 看護の基本的概念を理解し、人間に視点をあてる意味が理解できる。
2. 看護の変遷から発展して諸理論が理解できる。
3. 看護倫理の基本的知識を理解し、保健・医療・福祉における看護の役割を理解できる。

講義回数	学　習　内　容	
1回	1. 講義ガイダンス	1)看護への導入
		2)看護を学ぶにあたって
2回	2. 看護とは	1)看護の本質
		2)看護の役割と機能:ケア・キュア・コア
3回	3. 看護の継続性と連携	1)看護実践とその質保証に必要な要件
～		2)看護の役割・機能の拡大
4回		3)看護における情報伝達と共有
		4)多職種チームの連携と継続的かかわり
		5)在宅療養を支える連携と継続的なかかわり
5回	4. 看護の対象の理解	1)人間の「こころ」と「からだ」を知ることの意味
～		2)生涯発達しつづける存在としての人間の理解
6回		3)人間の「暮らし」の理解
7回	5. 国民の健康状態と生活	1)健康のとらえ方
		2)国民健康状態
8回		3)国民のライフサイクル
9回	6. 看護の提供者	1)職業としての看護
10回		2)看護職の資格・養成制度・就業状況
～		3)看護職者の継続教育とキャリア開発
11回		4)看護職の養成制度の課題
12回	7. 看護における倫理	1)現代社会と倫理
		2)医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理
		3)看護実践における倫理問題への取り組み
13回	8. 看護の提供のしくみ	1)サービスとしての看護
		2)看護サービス提供の場 (病院における組織と機能、役割)
		3)看護をめぐる制度と政策　他
14回	広がる看護の活動領域	1)国際化と看護
		2)災害時における看護
		全体のまとめ
評価	筆記試験	
テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[1]看護学概論 (医学書院) 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ　(医学書院) 看護の基本となるもの　V・ヘンダーソン著(日本看護協会出版会) 看護覚え書き　フローレンスナイチンゲール(日本看護協会出版会)	
備考	東海大学医学部付属八王子病院見学	

科目名 看護理論	講　師	霧生　緑 北沢　綾子	単位数	1
			時間数	15

科目目的 ： 複数の看護理論について学び、看護実践に活用できる。

科目目標 ： 1. 複数の看護理論を学び看護実践につなげることができる。
2. 看護の対する考えや意見を討論し自己の看護観を確認することができる。

講義回数	学　習　内　容	
1回 ～ 2回	1. 看護理論とは	1）看護理論の定義 2）看護理論を何故学ぶのか 3）看護理論について フローレンス・ナイチンゲール ヴァージニア・ヘンダーソン ドロセア・E・オレム アーネスティン・ウィーデンバック 他 ＊理論家はテキストにある理論家を選ぶ予定
3回 ～ 6回	2. 理論演習	1）演習の進め方 2）グループ演習の視点 ①看護理論を書いた人 ②理論の中の概念 人間 環境（社会） 健康 看護 ③理論を活用できる場面 3）発表方法・進行について
7回	3. グループによる発表	
評価	課題レポート、発表（内容、態度）	
テキスト	ケースを通してやさしく学ぶ看護理論　改訂4版（日総研）	
備考		

科目名	講　師		単位数	1
コミュニケーション技術			時間数	15

科目目的:看護場面に共通する看護の方法を理解し、看護技術を修得する。

科目目標:　1.対象に看護を提供する手段として看護技術の意義が理解できる。
　　2.看護実践に必要な基本的な共通技術を習得できる。

講義回数	学　習　内　容	
1回	1. 看護技術を学ぶにあたって	1)技術とはなにか 2)看護技術の特徴と範囲 3)看護技術を適切に実践するための要素
2～4回	2. コミュニケーション	1)コミュニケーションの意義と目的 2)コミュニケーションの構成要素と成立過程
5～7回	3. 看護とコミュニケーション	1)関係構築のためのコミュニケーションの基本 2)効果的なコミュニケーションの実際 3)コミュニケーション障害への対応
評価	筆記試験	
テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ　(医学書院) 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ　(医学書院) 看護技術プラクティス(Gakken)	
備考		

科目名	講　師	単位数	1
フィジカルアセスメント	北沢　綾子	時間数	30

科目目的: 看護場面に共通する看護の方法を理解し、フィジカルアセスメント能力を養いバイタルサインの根拠に基づき技術を修得する。

科目目標:　1.フィジカルアセスメントができる。
　　2.バイタルサイン測定ができる。

講義回数	学　習　内　容	
1回	ヘルスアセスメント	1)ヘルスアセスメントとは 2)健康歴とセルフケア能力のアセスメント 3)全体の概観
2回～6回	バイタルサインの観察とアセスメント	1）体温 2）脈拍 3）呼吸 4）血圧 5)意識
	計測	1）計測に関する基礎知識 2）計測の実際
7～8回	演習	1）呼吸・脈拍・体温・血圧測定の実際(演習)
9回～13回	系統別フィジカルアセスメント	1）呼吸器系のフィジカルアセスメント(演習) 2）循環器系のフィジカルアセスメント(演習) 3）乳房・腋窩のフィジカルアセスメント 4）腹部のフィジカルアセスメント 5）筋・骨格系のフィジカルアセスメント 6）神経系のフィジカルアセスメント 7）頭頚部と感覚器（眼・鼻・口）のフィジカルアセスメント 8）外皮系（皮膚・爪）のフィジカルアセスメント
	心理・社会状態のアセスメント	1）心理的側面のアセスメント 2）社会的側面のアセスメント
14回	医療機器の原理と実際（1）	1）医療機器の意義と目的
評価	筆記試験　実技試験（筆記試験、実技試験の合計で評価となる）	
テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ　（医学書院） 看護技術プラクティス　第4版（Gakken）	
備考		

科目名	講　師		単位数	2
看護記録と看護過程		霧生　緑 平本　智絵	時間数	45

科目目的:　看護過程の意義を理解し、看護過程を展開する基礎を学ぶ。

科目目標:1. 看護記録の意義・目的について理解できる。
2. 科学的思考を用いて看護過程を展開することができる。
3. 事例を通して看護過程が展開できる。

講義回数	学　習　内　容	
1回	1. 看護記録の目的と意義	1)看護記録とは 2)看護記録に関する法的規定 3)看護記録の目的と意義
2回	2. 看護記録の構成要素	1)看護記録の構成要素 (1)個人情報　(2)看護計画 (3)経過記録　(4)看護サマリー (5)問題リスト 2)看護記録記載時の留意事項
3回	3. 看護記録・診療情報の取り扱い	1)守秘義務と情報提供 2)情報提供の方法 3)看護学生としての医療情報管理について
4～5回	4. 看護過程の概念	1)看護過程の意義・目的 2)ゴードンの11の機能的健康パターンによる看護過程の展開
6～10回	5. ゴードンの看護過程の展開	1)ゴードンの11の機能的健康パターンの枠組みを用いた看護過程 Sデータ、Oデータとは、情報収集の実例 2)看護過程の考え方、思考の演習　(GW)
11回	6. 看護診断	1)看護の視点、看護の枠組み
12～22回	7. 看護過程の展開の実際	1)事例紹介　展開の方法 (1)情報収集の目的と視点　(2)情報源の活用と必要な情報の収集 (3)情報の整理の枠組み　(4)関連図の活用 (5)3側面による解釈・分析の方法　(6)健康問題の明確化 (7)問題の表現方法　(8)問題の優先度 (9)計画立案の目的と内容 (10)評価の目的 評価の方法　看護記録と看護要約の記載の目的・方法

評価	筆記試験　課題レポート　グループワーク
テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ　(医学書院) 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ　(医学書院) ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断(ヌーヴェルヒロカワ) ゴードン　看護診断マニュアル　原著第11版　機能的健康パターンに基づく看護診断(医学書院) 看護過程に沿った対症看護　病態生理と看護のポイント　(Gakken)
備考	

科目名	講　師	単位数	1
環境整備と移動の技術	北沢　綾子 小泉　幸子	時間数	30

科目目的: 看護の方法を理解し、日常生活の援助に必要な看護技術を実践できる援助技術を学ぶ。

科目目標:　1.人間に共通那生活の場を里理解し日常生活に必要な援助技術が理解できる。
2. 看護における対象の安全、安楽を守る技術について理解し実施できる

講義回数	学　習　内　容	
1回	1.援助の基礎知識	1）療養生活の環境 2）病室の環境のアセスメント
2～4回	2.援助の実際	1）ベッド周囲の環境整備 2）病床を整える 3）環境整備の意義と実際・ベッドメーキングの実際(演習)
5～6回	3. 感染防止の技術	1）感染とその予防の基礎知識 2）標準予防策（スタンダードプリコーション） 3）感染経路別予防策 4）洗浄・消毒・滅菌
7～9回	4. 無菌操作	1）無菌操作の基礎知識 2）感染性廃棄物の取り扱い 3）無菌操作の実際・ガウンテクニックの実際（演習）
10～14回	5. 活動と休息援助技術	1）基本的活動の基礎知識 2）体位 3）移動 4）体位変換の実際（演習） 5）車椅子移動の実際・ストレッチャー移動の実際（演習）
	6. 睡眠・休息の援助	1）援助の基礎知識 2）睡眠・休息の援助の実際
評価	筆記試験　実技試験	
	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ　（医学書院） 看護技術プラクティス　第4版（Gakken）	
備考		

科目名	講　師	小柳　麗子 小泉　幸子 平本　智絵	単位数	1
清潔援助と寝衣交換の技術			時間数	30

科目目的:看護の方法を理解し、日常生活の援助に必要な看護技術を実践できる援助技術を学ぶ。

科目目標: 1.人間に共通な日常生活のあり方が理解できる。
2.日常生活の援助に必要な看護技術を習得する。

講義回数	学　習　内　容	
1～8回	1. 清潔援助	1)清潔援助の基礎知識 2)全身清拭の意義と実際(演習) 3)部分浴の意義と実際(手浴・足浴) 4)洗髪の意義と実際(演習)
9～11回	2. 創傷管理技術	1)創傷管理の基礎知識 2)創傷処置 3)包帯法 (演習) 4)褥瘡予防
12～14回	3. 衣生活	1)病床での衣生活の援助 2)寝衣交換の意義と実際(和式寝衣　パジャマ)(演習)
評価	筆記試験　　実技試験	
テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ　(医学書院) 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ　(医学書院) 看護技術プラクティス　第4版(Gakken)	
備考		

科目名	講　師		単位数	
食事と排泄援助の技術		小柳　麗子 小泉　幸子	時間数	30

科目目的: 看護の方法を理解し、日常生活の援助に必要な看護技術を実践できる援助技術を学ぶ。

科目目標: 1.人間に共通な日常生活のあり方が理解できる。
2.日常生活の援助に必要な看護技術を習得する。

講義回数	学　習　内　容	
1回 2回 ～4回	1. 食事援助技術	1）食事援助の基礎知識 2）食事摂取の介助 3）摂食・嚥下訓練 4）食事の介助の意義と実際（臥床安静の患者）（演習） 5）口腔ケアの意義と実際（演習） 6）非経口的栄養摂取の援助
5回 ～10回	2.排泄援助技術	1）自然排尿および自然排便の介助 2）床上排泄の援助の意義と実際（便器　尿器）（演習） 3）陰部洗浄・その他整容援助の基礎知識 4）おむつ交換の実際・陰部洗浄の実際（演習）
11回	3. 導尿	1）導尿の意義と目的 2）一時的導尿の意義と実際（演習）
12回 13回 ～14回	4. 排便を促す援助	1）排便を促す援助の基礎知識 2）ストーマケア 3）グリセリン浣腸の実際（演習）

評価	筆記試験
テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ　（医学書院） 看護技術プラクティス　第4版（Gakken）
備考	

科目名	講　師	小柳　麗子 霧生　緑 小泉　幸子	単位数	1
与薬と注射の技術			時間数	30

科目目的: 診療の補助に必要な看護技術を実践できる能力を学ぶ。

科目目標: 1.人間一般にとっての診断・治療過程を理解し、看護の役割が理解できる.
2.診療の補助に必要な看護技術を習得する.

講義回数	学　習　内　容	
1回	1. 症状・生体機能管理技術	1)症状・生体機能管理技術の基礎知識 2)検体検査 3)尿検査 4)生体情報のモニタリング
2回	2. 診療・検査・処置における技術	1)診療の介助 2)検査・処置の介助 3)輸血
3・4回	3. 与薬の技術	1)与薬の基礎技術 2)経口与薬・口腔内与薬 3)点鼻 4)経皮的与薬 5)直腸内与薬
5～10回	4. 注射	1)注射の基礎知識 2)注射の実施法(皮下注射・筋肉内注射・静脈内注射・点滴静脈内注射) 3)皮下・筋肉内注射の援助と実際(演習) 4)採血の実際・点滴静脈内注射の援助と実際(演習)
11～14回	5. 呼吸・循環を整える技術	1)酸素療法 (1)援助の基礎知識　(2)援助の実際 2)排痰ケア (1)排痰ケアの基礎知識　(2)援助の実際 3)吸引 (1)援助の基礎知識　(2)援助の実際
評価方法	筆記試験	
テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ　(医学書院) 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ　(医学書院) 看護技術プラクティス　第4版(Gakken)	
備考		

科目名	講　師		単位数	
臨床看護の実践		小柳　麗子	時間数	15

科目目的: あらゆる健康レベルの看護を理解し、基礎的臨床判断能力を養う

科目目標:あらゆる健康障害にある人に基本的援助が理解できる。

講義回数	学　習　内　容	
1～5回	1. 健康状態の経過に基づく看護	1)急性期・慢性期・終末期・リハビリテーション期の特徴 2)各期の看護 (1)急性期 (2)慢性期 (3)終末期　　ホスピス病院見学 (4)リハビリテーション期
6回	2. 主要症状と援助	1)代表的な症状の理解 2)症状の特徴に応じた看護 3)指導の技術
7回	3. 薬物療法と看護	1)薬物療法の理解 2)薬物療法の特徴に応じた看護
評価	筆記試験　課題レポート	
テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ　(医学書院) 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ　(医学書院) 系統看護学講座　基礎看護学〔4〕　臨床看護総論(医学書院)	
備考		

科目名	講　師		単位数	1
臨床看護の演習		霧生　緑	時間数	15

科目目的: 看護実践における臨床判断能力を理解することができる

科目目標:1. フィジカルアセスメントを用いて情報を得ることができる
2. アセスメントに基づいた看護援助を実践できる

講義回数	学　習　内　容	
1回	1. 演習の概要 事例発表	1) 演習内容と演習方法 2) 事前学習提示 3) 事例患者　事前学習 事例患者1: 事前に提示 事例患者2:事前に提示
2～3回		4) フィジカルアセスメントと看護技術 (1) 事例提示された症状をもつ患者の観察 (2) フィジカルアセスメントと症状アセスメント (3) 看護実践の具体策
4～5回	2. 演習の実際	1) 看護の実際 (1) 事例患者1、事例患者2の優先順位を考え援助の一部展開・実施
6～7回	3. 演習発表	1) グループ発表 (1) チームメンバーと連携しながら実践した看護を振り返る
評価	演習発表	
テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ　(医学書院) 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ　(医学書院) 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔4〕　臨床看護総論　(医学書院)	
備考		